

2022年度 MEIKAI-JOE plus 研修会

第3回「聞くこと」「話すこと」

「わかった!」「もっと知りたい!」をひき出すために

2022年7月28日(木)

J-SHINE理事

共愛学園前橋国際大学 客員教授

井熊ひとみ

E-mail : iguma@kyoikushien-kitakanto.com

「聞くこと」「話すこと」の指導法について

本講座の目的

新指導要領において求められる児童の外国語活動・外国語科の基礎となる「聞くこと」「話すこと」の指導法を学びます。

講座の概要

「小学校外国語活動」・「外国語」の授業において指導要領に求められている目標を理解し、その技能や資質、能力をどのような手順で育成するかを学びます。

日本に育つ子どもたちが英語に触れ、学ぶプロセスからコミュニケーションに意欲をもって学びを進められるかを先生方と一緒に探していきます。そのための目的、場面設定、状況をどのように創り出していくか、そのためにはどのようなコミュニケーションが必要で子どもたちの気づきを促せるような活動を行うかを考えていきます。

では、「聞くこと」「話すこと」とは 何を指導すればいいのでしょうか？

「言語活動」の設定・「言語活動を通して」

外国語活動

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、話すことの**言語活動を通して**、コミュニケーションを図る素地となる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

小学校外国語科

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの**言語活動を通して**、コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

中学校外国語科

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの**言語活動を通して**、簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

高等学校外国語科

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの**言語活動及びこれらを結び付けた統合的な言語活動を通して**、情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

小・中・高校のすべてが「言語活動」を通して学ぶ
と指導要領には示されています

「言語活動」って何？

「実際に英語を使用して互いの考えや気持ちを伝え合う」



「言語活動」

「言語活動」を行いながら学んでいくこと

「知識・技能」だけでは、「言語活動」は成立しない。
そこに見方や考え方を取り入れて考えること、思うことを
表現できるようにするために「思考力・判断力・表現力」が求められる。

課題(ふりかえり):

今、行っている授業が「練習」だけに終わっていないか。
そこに自分の本当の気持ちや考えが含まれているか。

「ことばを学ぶ」とは

何から、どうやって？

聞く

話す

読む

書く

言葉を学ぶには、順番があります。

知らない言葉を知る、 どうやって？ 何をつかう？

ここで、40秒程度の動画をご覧ください。

母語（日本語）を学ぶプロセスの一場面です。

言葉を学ぶことの始めは「体験」から

日本語(母語)を学ぶ道のりを英語におきかえてみると
英語においては、赤ちゃんと同じ状態でスタートする

日本語は使えても英語を使うにはとても長い道のり



だから、多量のインプットと、手がかりが必要

何度も何度も「気づき」を促し、間違えながら学んでいく

外国語活動 と 外国語(教科)のちがいを理解して授業を行う

●外国語活動(3領域) 聞く・話す(やりとり/発表)

聞く事が十分に必要。たくさん聞かないと話すことにはつながらない

練習することで終わらせない ⇒ 互い(相手意識)の気持ちや考えを入れる

●外国語(5領域) 聞く・話す(やりとり/発表)・読む・書く

外国語活動で行った「聞く・話す」を土台にして題材を取り入れる

キーワード: 「人」「もの」「こと」

日頃の児童の様子を知る担任の力、他教科との関連に興味関心を
引き出せる先生の力が必要

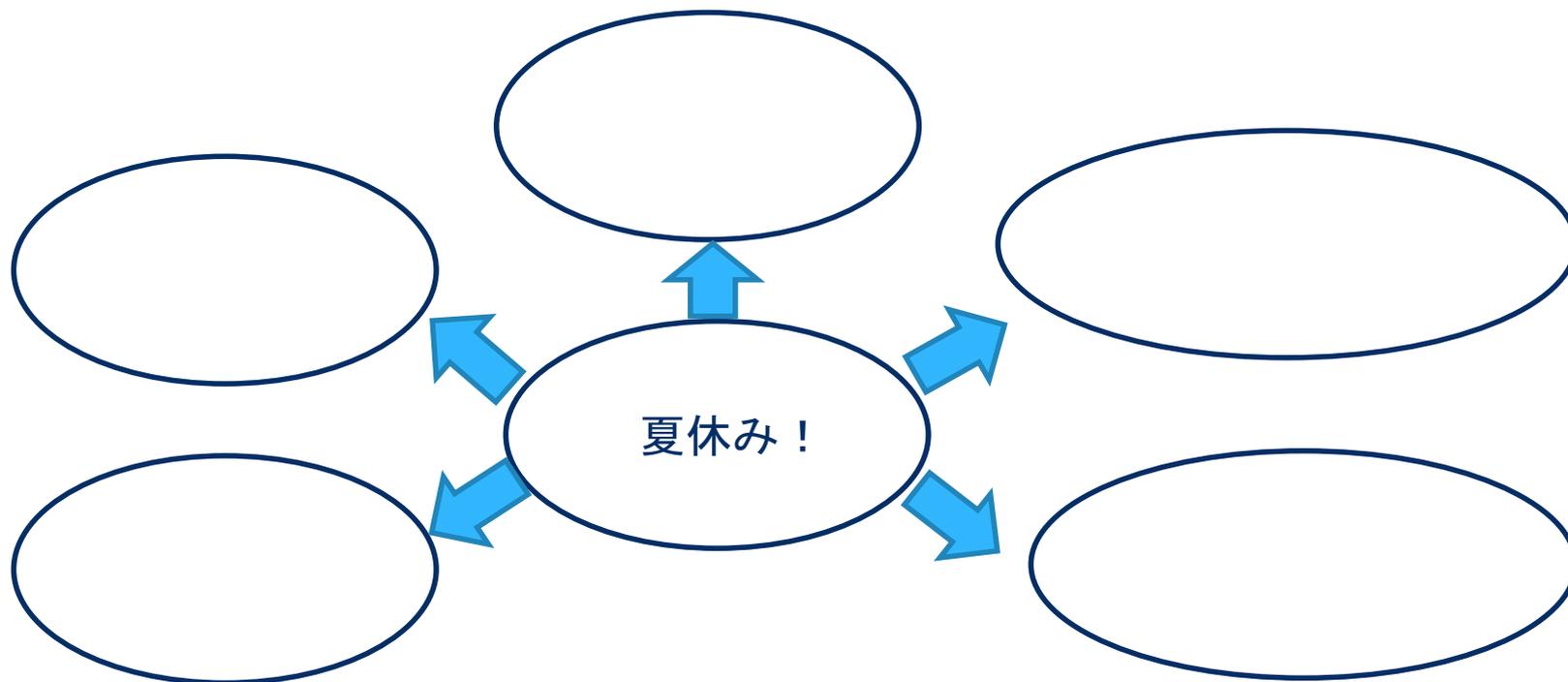
「思考力・判断力・表現力」「学びに向かう力」を引き出せるのは、担任の先生

「体験」のためには、「場面」が必要

課題1) 「夏休み」をテーマにしてみよう！

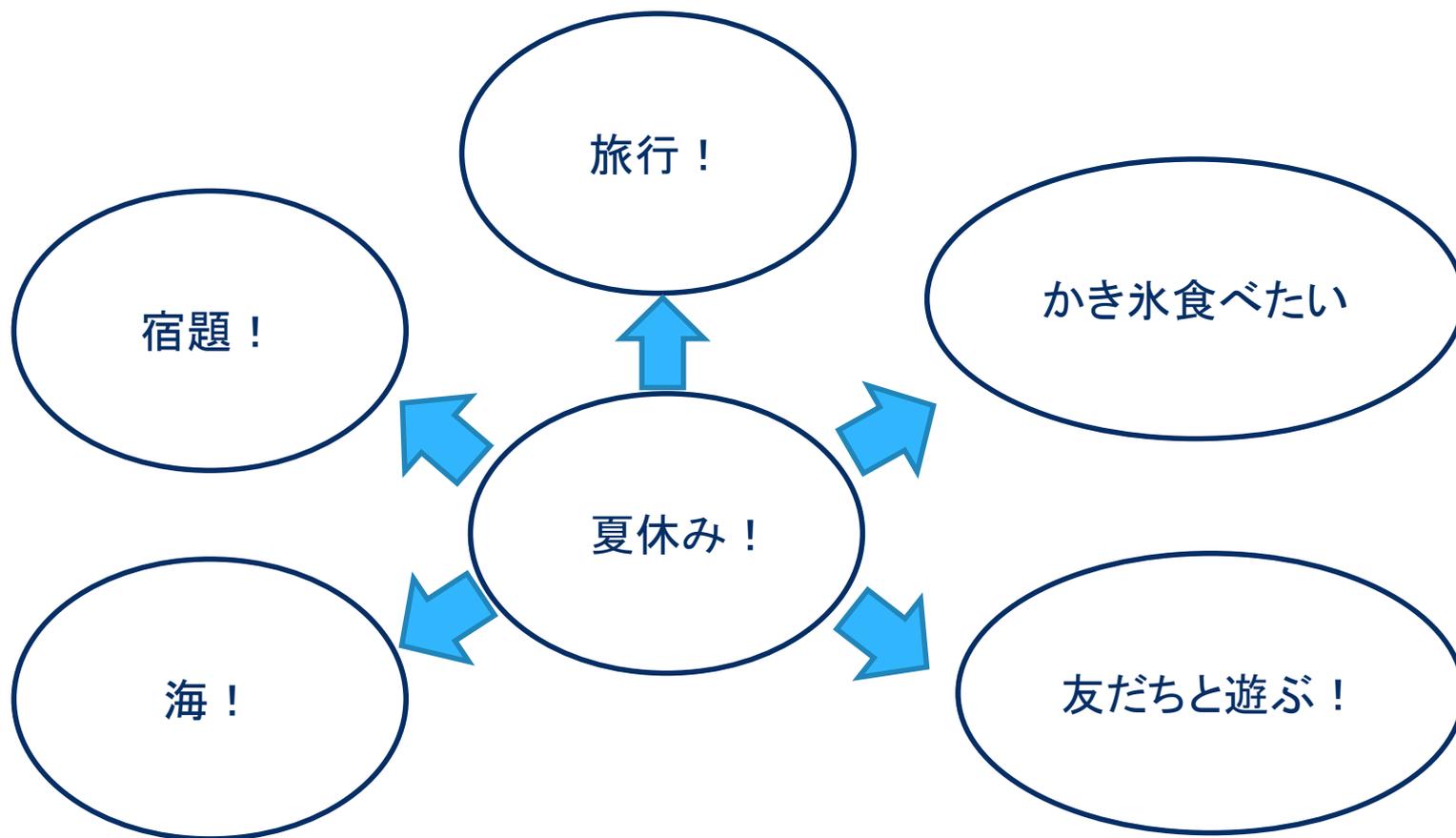
夏休みをテーマにした時、どんなことを子どもたちが話したい、聞いてみたいでしょうか。

夏休みのキーワードさがし



Let's enjoy summer vacation ! 「夏休みを楽しもう！」

夏休みのキーワードさがし例



単元テーマ Let's enjoy summer vacation! 「夏休みを楽しもう！」

単元目標 自分の夏休みに何をしたいか。友だちのしたいことは何かをたずねてみよう。

導入 どんな導入方法にするか？

定着 定着のための練習はどんな活動にするか？

やりとりのできる場面設定。活動は、全体⇒個へ 急がない
インフォメーションギャップのある活動にするには？

発展 この単元で最後に子どもたちにできることは何か？

自分の夏休みにしたいことを相手に伝えられる。
人のお話を聞いて、感想を言える。

教材は何を使うか？

どんな言語材料があるか？

使えるクラスルームイングリッシュは何があるか？

「目的」のためには、「言いたい活動」が必要

Let's enjoy summer vacation! 夏休みを楽しもう!

何を言いたいのか、何をしたいのか が先に。⇒「思い」を「表現」

~をしたい ~に行きたい ~を食べたい ~を見たい

これをいきなり英語にできない。

では、先生は何から指導しましょうか

Small Talkを作って
子どもたちに聞いてもらおう



ALTの先生に
ちょっと手伝ってもらおう

言語材料は何にするかを考えよう！

教科書に材料がある？ ・単語カード ・音声教材 ・写真

Small Talkで導入してみよう！

Small Talk 例) (担任の先生1人の場合)

Look at the calendar! We have summer vacation !!

I want to go to the sea. I want to swim in the sea.

I want to eat “sashimi” and “watermelon.”

I like “sashimi” very much. “Sashimi” is yummy!!

Do you like “sashimi?”

What do you want to do in (during) your summer vacation?

手がかり(教材)は、何を使う？ 何を見せる？ どう見せる？

手がかりとは、先生の見せる動作・表情・声のトーンと、教材。
かたまりで覚える小学校での英語では、何度も聞かせることが大切。 推測力 ⇒ 知識へ

課題2): 先ほどのSmall Talk例から、先生が表現してみましょう。

Look at the calendar! We have summer vacation !!
I want to go to the sea. I want to swim in the sea.
I want to eat “sashimi” and “watermelon.”
I like “sashimi” very much. “Sashimi” is yummy!!
Do you like “sashimi?”
What do you want to do during your summer vacation?

課題3): 先生なら何を取り入れて導入したいですか？

Look at the calendar! We have summer vacation !!
I want to go to . I want to .
I want to eat “” and “”
I like “” very much. “” is yummy!!
Do you like “?”
What do you want to do during your summer vacation?

課題4): そのために必要な教材は？ ⇒ 定着をはかるための活動は？

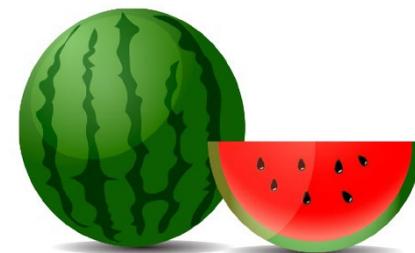
練習は何をする？

ゴール(目標)は？

Small Talkで単元のねらいを導入してみる



Sun	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			



- ① T1とT2のかけあいであれば、「やりとり」が見せられる
- ② T1ひとりだったら自分で気持ちを伝える。児童にも問いかけるなど



★ヒント(手がかり)をどのタイミングで示すか

★児童は先生のお話を聞いて類推できるか

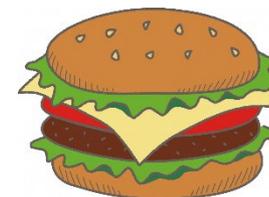
★その後、イラスト(絵カードや、ICT教材など)を提示
T1の話すタイミングでカードを提示など

さあ、練習しよう！ I want to go to ～. I want to eat ～.

I want to go to 行きたい場所 を表現してみよう。



I want to eat ～ 食べたいものを表現してみよう。



いくつかの選択肢を見せてあげると壁は低くなる。本当に行きたいところ、食べたいものを自分で考えて表現できれば発表につながる。

いきなり個人活動で発表はできません。何度も「言ってしまう」活動で言えるようにしましょう。そこに既習の I like～. などが入ったりしながら言えるといいですね。

行きたいところ、食べたいもの、見たいもの、したいことが表現できる

それが答えになるような質問が必然として必要になる。⇒練習

Where do you want to go? What do you want to do?
What do you want to see? What do you want to eat?

質問文が練習できたら、既習の I want to ～が答えになりうる。⇒ 会話の成立

「やりとり」の活動を行う。 あいづちをお忘れなく！

ポイント：いきなりひとりで言えない（負荷はだんだんに）
練習をするためにアクティビティをする
チャンツ？ ゲーム？ ⇒ 定着

たくさん聞いて、まねてみる

使っておぼえる ⇒ 活動で

聞いていることが理解できているか

推測 ⇒ 知識へ

使っておぼえる定着活動

知識 ⇒ 技能へ

友だちは何をしたいのか？

相手の考えを知るために「やりとり」の方法を知る ⇒ 「話す(やりとり)活動」

自分(達)なら何を表現したいか

思考・判断・表現⇒「発表」へ

友だちの発表を聞いてどう思ったか

ふりかえりカードの具体化

この単元を通して、指導者が目的としたことが達成できているのか。
CAN-DOリストの必要性（教師も児童も）⇒ 粘り強くがんばる姿・学びに向かう姿勢



それが評価につながる

では、どうやって教えましょう？ 何から？



年齢にあっているか
 簡単だ！と思えることか
 考える活動もいれる
 好奇心を刺激しているか
 手がかりはあるか
 ちょっとチャレンジ！

精神的 社会的発達を考慮して
 「達成感・自信をつけられる」
 「自分のアイディア」「友達の様子」協調性と他者尊重
 「インフォメーションギャップの大切さ」

「場面のある設定」 疑似体験や想像力、非言語コミュニケーション
 「できた！」「がんばれた」は、自尊感情 self-esteemアップ



言わせる活動 < 言いたい活動の工夫

全国の先生方

研修のご参加、ご清聴ありがとうございました。

子どもたちが自分の言いたいことを表現するために

そして、自分ががんばれた事を喜べるように

願っております。

秋にお会いできることを楽しみにしています。

井熊 ひとみ